

..... 編集後記

◆ 4月26日、尼崎でJR西日本の通勤電車が脱線・転覆し、死者が100人を越えるという大惨事が発生しました。電車はすでに確立された技術で運行されており、最も安全な乗り物とっていましたので、大きなショックを受けました。事故に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。JR西日本の利益優先主義が根本原因との指摘もあるようです。地質の分野でも、基礎をもう一度見直し、調査や実験での事故を防ぐための、他山の石としたいものです。

◆ さて地質ニュース今月号も、希土類元素資源・陶磁器・地熱・温泉・砂・石材とパラエティに富んだ1冊となりました。

◆ 石原特別顧問の皆さんの「いまレアアースがおもしろい」は、中国でのみ知られる「イオン吸着型」鉱床の話です。レアアース(希土類元素)とは、ネオジウム・サマリウム・イットリウムと言った一群の希元素です。地球での存在量も産出量も少ない元素ですが、磁石や超伝導材料として先端産業にはなくてはならない資源、今注目の資源、興味津々で読んでいただけると思います。

◆ 茂野氏の「地熱資源評価の研究」は、地下での温度分布・温度構造がどのように推定され、地熱開発地点がどのように選定されていくのか、普段は覗くことのない世界が紹介されています。

◆ 佐藤氏の「昭和南海地震と湯峯温泉」の話、興味津々ですが、大地震の怖さも感じてしまいます。

◆ 神谷・須藤氏の「備前焼きとその粘土」は陶磁器に興味をお持ちの方には興味深い話でしょう。日本の陶磁器の最高峰の1つである備前焼の土がごく普通の田んぼの土であるのは意外です。

◆ 須藤・有田氏の「薩摩地域の砂」は砂と浜の地域誌のその2。海岸の砂から、巨大な吹上浜の砂の像に隠された秘密・黒い砂の中の緑の砂粒・不思議な貝殻とさまざまな話題が楽しく紹介されています。

◆ 高橋氏の偏光顕微鏡の活用例は、長石の双晶と花崗岩の成因の話です。一般の方は一部をお読み下さい。多くはこれから専門的に勉強しようと言う方のためのちょっと難解な資料となっています。

◆ 小村氏の「近畿の石材」は那智黒石の紹介です。碁石の黒や硯の材料として良く知られていますが産地や採掘状況などはあまり知られていません。他では見られない貴重な資料でしょう。

◆ 訂正とお詫び：本誌4月号の記述に次のとおり誤りがありました。5ページの表紙写真の解説5行目で、「重量約3,000トン」という記述は誤りで、「重量約1,800トン」が正当です。訂正してお詫びします。

◆ これからうっとしい梅雨、フィールドに出にくい季節、地質標本館特別展をのぞいてみてはいかがでしょう。また、地質ニュースの原稿を書くのにも適した季節です。皆様の投稿をお待ちしております。

(須藤定久)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤定久

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・高橋裕平・

光畑裕司・七山 太

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754

Fax. 029-861-3746

地質ニュース	第609号	2005年	5月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2005年5月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail:jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2005 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ